

CCI 特集号 ①

10月2日1・2年次を対象にCCI(コスモス・カレッジ・インターシップ)が開催されました。10大学と仙台天文台から20名の先生方をお招きし、文系8講座、理系12講座の講義を開催しました。大学に在籍する本校卒業生から推薦していただいた先生方の講義だけに進路を考える上で刺激になったと好評でした。

経済・経営系 高力 美由紀 先生

(宮城大学事業構想学部事業計画学科准教授)

「マーケティングとは—新しい価値を人々に届けるためには」

「マーケティング」という言葉は多く耳にすることがありますが、一体マーケティングは経済ビジネスの中でどういう位置付けでどんな役割をしているのかあまり知りませんでした。マーケティングはビジネスの目的である「永遠に続く」ということと大きく関係していることがわかりました。ディズニーランドやJRなどを例にした独自の新しい価値がそのためには必要だと思いました。新しい価値を創造するには斬新なアイデアだけではなく多方面から物事を見る必要がありますすべてのことを顧客に結び付けて考える必要があるのだということがわかりました。マクドナルドのコーラの原価は5～15円だけれど顧客が買う最大の価値が大体100円くらいだからその値段で売る、安すぎるとだめ、というのには驚きつつ納得しました。(2年次普通科)

心理学系 加藤 健二 先生

(東北学院大学教養学部人間科学科教授)

「認知心理学—心の科学から応用へ」

ところがどのように対象を認知しているのか今まで考えたことはなかったけれど、いくつかの段階を踏んで理解しているのだと知り人間の脳の処理能力の早さに驚いた。また、こんな細かい段階を踏まないものを認知できないという脳の複雑さにも驚いた。認知心理学ではところが対象をスキーマ(人間が日常生活を送るなかで自然に身に付いている考え方・ものの見方)と照らし合わせるまでにいくつかの段階があるとされているが、それをどのような実験によって証明したのかが気になった。

(1年次普通科)

文学系 横溝 博 先生

(東北大学大学院文学研究科・文学部教授)

「日本古典文学研究の方法」

「きつねのおきやくさま」という絵本と今昔物語集の「三獣行菩薩道兔焼身語第十三」という話を読みました。どちらの話も他の生き物のために自分が犠牲になって死んでしまうという切ない話でした。良い行いとは本当はどのようなことなのかを考えさせられました。昔の話ではありますが、現代でも人の心を動かすようなすばらしい作品だなと思いました。古典の作品はただのたとえ話で終わりではなく昔の人が伝えたかった思いが込められていて、それを文章を通して理解しようとするのが国文学の面白さなのかなと感じました。

(1年次 普通科)

語学系 遊佐 典昭 先生

(宮城学院女子大学学芸学部英文科教授)

「言葉から探る心・脳」

先生のお話はとにかく驚きの連続でした。私たちが普段の生活の中でまったく意識せずに使っていること、行っていることに焦点を当て深く追求することの面白さを感じました。クジラに文法があること、小鳥にも文法があり、方言もある、とても夢のような話でした。もっと深く知りたいです。すべてを通してとにかく小さなことにも疑問を持つことの重要性を改めて実感しました。講義の途中で見た「マガーク効果」にも驚きました。目を閉じて聞くと全員一致で1つの答えに迫りついたことはもちろん面白かったし、目からと耳からの情報を上手にコントロールしている自分の脳に一番驚かされました。人間というものを完全にわかっていないことへの恐怖が生まれたと同時にもっと知りたいという気持ちが強くなりました。今回のお話で「学ぶ」ということの本質に少し近づけたような気がします。

(2年次理数科)

医療系（看護）

藤田 愛 先生

（山形大学医学部看護学 准教授）

「大学で看護学を学ぶ～看護職の責務と魅力～」

看護の対象がすべての年代の病気や怪我を負っている人だけでなく健康な人でも対象になるというお話を聞いて今まで自分の認識が間違っていたことを知りました。私が特になるほどと思ったのは、看護についてのサイエンスとアートのお話でした。看護という1つの枠の中にサイエンスとしての物理学的な介護とアートとしての心理学的な看護があり、その2つがバランスよく融合されると良い看護を提供できる良い看護師になれるということを知り、日常的にもそういうことはあるなと認識することができました。また、身近な話である「大学で看護を学ぶこと」についても多くのお話を聞くことができ、よりその道に進み、看護師になるという自分の目標を達成したいという気持ちが強くなりました。

（2年次理数科）

遺伝子工学系

木下 健吾 先生

（東北大学工学部電気情報物理工学科教授）

「ゲノム配列情報の違いから見るヒトの多様性」

生物の授業で遺伝子やゲノムについて習ったばかりで理解できるか不安でした。ですが、最近話題になっている遺伝子診断についての話やパワーポイントの画像での説明により身近に感じわかりやすかったです。遺伝子やゲノムの操作で技術が発展すれば今まで不可能だったことが可能になりますが、それと同時に人間の倫理についても発展させないといけないなと思いました。人同士の遺伝子の違いが0.1%であったり、ゲノムの配列から様々なことが読み取れるようになるまでにモデル生物を用いたり、病気の人の配列を調べたりしたことなど、ゲノムの初歩的なことをしっかり理解できました。もともと遺伝子などの生物関係の話が好きで農学部や理学部をめざそうと思っていたのですが、工学部でもそのような研究をしているのだと知ってびっくりしました。

（1年次理数科）

都市工学・建築学系

中田千彦 先生

（宮城大学大学院・事業構想学部情報デザイン学科准教授）

「メディアデザインとは？」

今回の講義ではメディアの多様性、デザインの可能性について様々な観点から映像などを通して学ぶことのできる良い機会になりました。

「いかに物がよくても伝える力がないといけない」と中田先生がおっしゃっていたように、メディアは物事を魅力的に見せるツールのひとつなのだと感じることができました。特に印象的だったのは ISSEY MIYAKE さんのお話をしていたときの「今まで使われてた技術でも、新しいステージに持っていくことで変わったものになる」というような内容の話です。私は今まで新しいものを生み出すのは0から始めることだと考えていました。しかし、それだけではなくて、従来からあったものを様々な形・形式に転換していくのも新しいものを生み出す方法なのだを知ることができて今までの考えを覆されました。

（1年次普通科）

薬学系

加藤 正 先生

（東北薬科大学薬学部教授）

「高校生のための薬学への招待；くすりを創る研究開発について」

私は将来創薬、製薬をしたいという夢があります。その中で、「アルツハイマー治療薬」や「コレステロール降下薬」などの薬のでき方・発見のされ方について知ることができたのはとてもよかったです。もし自分が創薬する立場にいたらどのように考えるだろうかと思いつつ話を聞いていました。人体やウィルスは面白い半面、難しいところも沢山あります。沢山の年月と費用をかけて薬を創っても万人に効果があるとは限らないし、拒絶反応の問題や服用の手軽さなどの考慮もしなくてはなりません。様々な面から研究していくことができ、一度の開発で何万人もの患者さんを笑顔に変えられることが薬学の魅力なのかなと改めて思いました。

（2年次普通科）